

保健医療学部臨床工学科カリキュラムマップ

【設置の趣旨・必要性】
 ○高度化、高機能化した医療機器が医療現場に投入されている中、適切に管理し、医師の指導のもとで安全な治療を提供するための「医療機器のスペシャリスト」として、臨床工学士が幅広い医療領域で求められている。
 ○今後、高齢者自らの住まいにおいての在宅医療・介護連携の促進、提供が重要な課題となる中、高度医療機器を安全かつ効果的に使用していくため、臨床工学士による量的、質的な支援体制の充実が求められている。
 ○これからの在宅医療への移行と充実に向け、先端医療分野から地域・在宅医療連携まで幅広く活躍できる優秀な臨床工学士の安定供給を実現し、地域医療における課題解決に寄与することで、地域に住まう人々の健康増進、医療への安心などを通じて、地域医療の向上に貢献していく。

【養成する人材像】
 ○高度医療機器による安全かつ確かな医療技術の持続的提供ができる基礎力、応用力を備え、これらの課題に対応できる臨床工学士。(DP③④⑤⑥)
 ○生命の尊厳と医療に携わることの職責の重さと医療人としての人格・教養と、チーム医療(保健・医療・福祉)や地域医療において他の医療職と連携・協調しながら主体的に行動できるための態度、科学的思考力、課題解決力を備えた臨床工学士。(DP①②⑤⑥)

アドミッション・ポリシー
 本学科の教育理念及び教育目標に共感し、本学科を成長の場としたいと願う次のような学生
 の入学を希望する

①人の尊厳を重んじ、生命への高い関心と倫理観を有する人

②臨床工学士を志しており、地域医療の地域医療の現場で活躍したいと考える人

③臨床工学を学ぶための理数系科目の基礎学力と、医療に関する高い学修意欲を有する人

④医療機器の開発等を通じて、医療の発展に貢献したいと考える人

カリキュラム・ポリシー
 より安全で確かな医療技術の持続的提供と、社会に対する幅広い視野をもち、地域における医療・保健・福祉の活動に貢献できる基本的能力を持つ臨床工学士を育成することを目的として、次の科目を配置し教育課程を設定する。

①臨床工学に必要な医学の基礎知識を修得する

②臨床工学に必要な理工学の基礎知識、能力を修得する

③安心で安全な医療・保健・福祉を実現するための臨床工学技術を修得する

④生命維持管理装置および医用治療機器などの原理と操作、保守、点検に関する知識と能力を修得する

⑤患者にとって安全で効果的な医療の提供と地域の医療・福祉の課題解決に取り組むことができる能力を修得する

教育課程							
1年		2年		3年		4年	
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
◎導入科目 キャリアデザイン・チーム論 情報処理基礎 ◎人間力科目 哲学 人間の発達と心 社会学科目 ◎科学力科目 教養としての物理 教養としての数学 ◎健康と体力 ◎外国語		<共通教育科目> アカデミック・スキルズ 南加賀の歴史と文化 テーマ別基礎ゼミ 日本国憲法 公共政策論 社会福祉論 情報処理応用B 統計学 ※ ◎マークは各領域		・学びの場「南加賀」への理解 ・臨床工学の学修への動機づけ ・医療従事者としての教養 ・社会福祉制度の理解 ・物理や数学の基礎知識			
<医学的基礎> 解剖学 生理学 生化学		感染症免疫学 病理学		公衆衛生学 薬理学 解剖生理学実習		医学概論	
<理工学的基礎> 電気工学Ⅰ 電気工学演習Ⅰ 応用数学 情報処理工学		電気工学Ⅱ 電気工学演習Ⅱ 電子工学Ⅰ 電子工学演習Ⅰ 医用工学概論 プログラミング演習		電気工学実習 電子工学Ⅱ 電子工学演習Ⅱ システム工学 医用機械工学		医療関係法規 チーム医療概論	
科学的思考力の基礎から応用へ		医学と工学の併合領域の理解		計測工学 放射線工学		・人体の構造と機能、疾患の基礎的理解 ・医学・医療の基本と全体像の理解	
基礎医学から臨床工学技術へ		<医用生体工学> 生体物性工学 <医用機器学> 医用機器学概論		医用材料工学 医用治療機器学Ⅰ 生体計測装置Ⅰ 医用治療機器学Ⅱ 生体計測装置Ⅱ 臨床支援技術学		治療機器生体計測装置学実習 臨床支援技術学実習	
		<生体機能代行技術学> 呼吸機能代行装置学 循環機能代行装置学 代謝機能代行装置学		呼吸機能代行装置学実習 循環機能代行装置学実習 代謝機能代行装置学実習		・生体現象への医学的、工学的なアプローチに関する知識、能力 ・生命維持管理装置の操作、保守、点検の手法 ・臨床工学士に必要な疾患の知識 ・生体への安全性、医療機器及び設備で必要な安全性の理解	
		臨床医学A		臨床医学B 臨床医学C 臨床医学D		DP③ 臨床工学士が使用する医療機器の構造と操作・保守・点検の知識と能力を有している。	
		<医療安全機器管理学> 医用機器安全管理学		医用機器安全管理学実習		DP④ 生命維持管理装置の安全で適切な取り扱いに関する知識、能力を有している。	
				<総合実践科目> ・現場での協調性、実践力 ・多職種間連携の知識		DP⑤ チーム医療の一員として、他の医療専門職の役割を理解し、協力して患者の視点に立った医療の実践に取り組むことができる。	
				病態神経科学 臨床実習事前事後演習 臨床実習 卒業研究		DP⑥ 地域医療の現状や課題を的確に把握し、その課題解決に取り組むための知識、思考力を有している。	

共通教育科目
 医学的基礎科目
 理工学的基礎科目
 医用生体工学科目
 医用機器学科目
 生体機能代行技術学科目
 医用安全管理学科目
 総合実践科目

黒の囲い: 選択科目、選択必修科目
 赤の囲い: 必修科目

ディプロマ・ポリシー
 卒業までに所定の単位を修得し、本学科の養成する人材像に掲げる次の能力を修得した者に、学士(臨床工学)を授与する。

DP①
 医療従事者としての役割を理解し、人の生命に関することへの責任感と倫理観を有している。

DP②
 臨床工学士として必要な医学、工学に関する専門基礎知識を有している。

DP③
 臨床工学士が使用する医療機器の構造と操作・保守・点検の知識と能力を有している。

DP④
 生命維持管理装置の安全で適切な取り扱いに関する知識、能力を有している。

DP⑤
 チーム医療の一員として、他の医療専門職の役割を理解し、協力して患者の視点に立った医療の実践に取り組むことができる。

DP⑥
 地域医療の現状や課題を的確に把握し、その課題解決に取り組むための知識、思考力を有している。

実績のある進路・就職先

【国家試験受験資格】
 臨床工学士

病院、医療福祉機関、一般企業

大学院進学